

【原 著】

意思決定を促す小学校社会科授業方略
—ロールプレイングによる価値の
共感的理解と吟味を手がかりに—

杉田 直樹 桑原 敏典

Study on the Teaching Strategies of the Social Studies Class of the Elementary
School Aiming to develop Students' Decision Making Ability
—Based on Sympathetic Comprehension and Examination of the Value by Role-Playing—

Naoki SUGITA , Toshinori KUWABARA

2012

岡山大学教師教育開発センター紀要 第2号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.2, March 2012

意思決定を促す小学校社会科授業方略

—ロールプレイングによる価値の共感的理解と吟味を手がかりに—

杉田 直樹※¹ 桑原 敏典※²

要旨：本研究は、小学校社会科授業において、市民的資質育成には不可欠である意思決定力を育成するための授業方略を明らかにし、その具体的なあり方を授業計画の立案を通して示そうとするものである。現在、各学校段階で意思決定過程を取り入れた様々な授業実践が見られるようになっている。しかし、児童の価値認識にまで効果的に関わっている実践は見られない。その理由の第一は、授業で扱う社会問題の取り上げ方が表面的なものにとどまり、その背後にある価値対立にまで踏み込めていないことである。第二に、児童自身の価値観が十分に確立しておらず、教材に含まれる価値対立を自己のそれと比較検討していくことが困難であるということを挙げる事が出来る。以上の二点の課題を克服するため、ロールプレイングによる共感的理解の過程と、自己の価値観の吟味の過程を組み込んだ小学校社会科における意思決定学習を提案していく。

キーワード：社会科教育、意思決定、価値認識、共感的理解、ロールプレイング

※1 杉田直樹（岡山大学大学院）

※2 桑原敏典（岡山大学）

I はじめに

本研究は、小学校社会科授業において、市民的資質育成には不可欠である意思決定力を育成するための授業方略を明らかにし、その具体的なあり方を授業計画の立案を通して示そうとするものである。

意思決定とは、小原友行によれば、「問題解決場面での自己の行為を科学的社会認識と反省的に吟味された価値判断に基づいて選択・決定」¹⁾することである。すなわち、意思決定学習は、事実認識に加えて児童の価値認識にまで関わり、問題に対して自己の価値観に基づいて思考・判断しより良い解決策を選択できるようにする学習である。いわゆる科学的社会認識形成を社会科授業の中核として捉える立場に比べると、市民的資質により広く関わろうとする立場であり、社会の形成者育成を求めているという現代の要請により直接的に応えようとする教育論であると言える。

小原による意思決定学習の提案以降、各学校段階で意思決定過程を取り入れた様々な授業実践が見られるようになった。しかし、管見の限りではあるが、児童の価値認識にまで効果的に関わっている実践は見られない。その理由としては以下の二点が考えられるのではないかと。第一は、授業で扱う社会問題の

取り上げ方が表面的なものにとどまり、その背後にある価値対立にまで踏み込めていないことである。踏み込めていないのは、教師の教材研究に問題があるとして授業の中でそれを提示し得ていないこともあるが、たとえ提示できたとしてもそれが複雑で児童が捉えきれないためでもある。対立の根底にある価値の相違にまで踏み込んだ教材研究が要請されることは言うまでもないが、児童が捉えられる価値対立を含む教材を選ぶという視点と、児童に捉えやすいように価値対立を分かり易く示すための授業構成の工夫が必要であると言えよう。小学校の意思決定学習が効果的になされていない原因の第二は、児童自身の価値観が十分に確立しておらず、教材に含まれる価値対立を自己のそれと比較検討していくことが困難であるということを挙げることが出来る。教師は児童が日常生活の中で確立している価値観を把握すると同時に、それに基づいて社会問題の背後にある社会的な価値の形成を促すような指導も求められているのである。以上のような小学校段階における意思決定学習の困難性をふまえないと、授業における意思決定過程は形式的なものとなり、単なる活動だけで認識形成を伴わないものになってしまうのである。

本研究では、小学校段階における意思決定学習に

見られる先の困難性を克服するために、ロールプレイングによる共感的理解の過程と、自己の価値観の吟味の過程を組み込んだ小学校社会科における意思決定学習を提案していく。具体的には、チョコレートの原材料であるカカオを巡る南北問題を取り上げて、その問題の解決のための政策選択を行う授業計画を提案していきたい。

Ⅱ 意思決定学習の原理と方法

—小原友行・森分孝治の論を手がかりに—

1 意思決定学習の原理

—小原友行の意思決定学習論—

意思決定学習を社会科の原理として提唱している小原の授業構成論は、意思決定を授業の最終段階に位置づけ、学習の成果として児童が自分なりに一つの判断・決定を下すことができることを目指している点が特徴である。

小原は、そのような意思決定学習の授業構成原理について、以下の二点を挙げている。

- ・教材としての社会的論争問題
- ・論争問題を探求する授業過程の組織

第一に、教材としての社会的論争問題である。小原は、意思決定の活動を行うためには「意思決定を迫るような問題場面に直面させることが必要である」とし、その問題場面として「個人・集団・組織体が直面している判断の分かれるような問題であり、価値観の違いによって解決策が分かれるような、それゆえ合理的な解決が困難な論争的問題」²⁾である社会的論争問題を教材としている。すなわち、実際に葛藤が生じている論争問題を教材とすることで、問題の解決のための意思決定を迫る場面を設定し、児童・生徒に意思決定の経験を積ませることが目指されている。

第二に、論争問題を探求する授業過程の組織である。小原は、論争問題の探求について、「実際に『意思決定』の活動（問題把握、問題分析、達成すべき目的・目標の明確化、実行可能な行動案の提出、行動案の論理的結果の予測と評価、行動案の選択と根拠づけ）を行う」³⁾としている。すなわち、実際に論争となっている問題を把握・分析し、選択する目的を明確にすることで、授業の終結部分において事実と価値の両面から一つの判断・選択を行う授業構成となっている。

以上のように、小原の提唱する意思決定学習は、児童が意思決定をせざるを得ないような課題を設定したうえで、その課題について事実と価値の両面から分析させ、一つの判断・決定を下すことを目的としている。

単なる認識形成にとどまらず、意思決定を通して課題に積極的に関わろうとする意欲や態度を育成しようとしていると言えよう。

2 市民的資質教育における合理的意思決定

—森分孝治の市民的資質教育論—

小原が授業構成から意思決定の必要性を唱えたのに対して、社会科の目標原理である市民的資質の構造から意思決定の原理にせまったのが森分孝治である。森分は、市民として求められる活動の一つとして合理的な意思決定を挙げ、そのために必要な資質を市民的資質としその育成が社会科の目標であると述べている。したがって、森分の論においては、意思決定を社会科授業の直接的な目標とは位置づけず、あくまで事実認識を核とする市民的資質の育成を目標としている。森分は、市民的資質について以下のように述べている。

市民的資質は、市民的活動のできる力と捉えられる。社会問題について合理的に意思決定し、そして、あるいは、実際的には、自己の感情や利害をまじえて意思決定して、発言し、投票し、さらには、解決のための直接的な行動をとってゆく能力である。市民的資質は、人格の構成要素である知、情、意に対応して社会認識体制と感情と意志力で構成されていると想定できる。⁴⁾

すなわち、合理的意思決定は、市民的活動であり、その活動を行うためには、社会認識体制、感情、意志力の三つからなる市民的資質を育成することが必要となるのである。森分は、社会科教育学研究の中で、「説明」主義社会科の立場をとっている。「説明」主義社会科における市民的資質育成への関わり方について、森分は以下のように述べている。

自分が生活する社会を対象化し、その本質や構造、メカニズムを知れば、社会観、価値観は根底から揺すぶられ、社会認識体制は飛躍的に成長するのではないか。そして、既存の社会から精神的に自由になり、その在り方に関わる問題にも合理的な意思決定ができるようになるのではないか、というのがこの立場の主張である。⁵⁾

すなわち、事実認識を確固たるものとする、特に、社会科学の成果を用い対象を客観的に捉えていくことを通じて、社会認識体制を成長させることが、市民的資質育成につながるのである。そして、森分は、「われわれは既存の社会認識体制をもって社会的事象・問題に対し、それを説明し評価し、それに対

する意思を決定してゆき、その説明、評価、意思決定を通して社会認識体制を成長させているのである」⁶⁾と述べている。すなわち、社会認識体制を成長させるための手段の一つとして、意思決定が捉えられている。

以上のように、小原が意思決定自体を授業の目標として位置づけているのに対して、森分は意思決定の重要性は認めつつもそれを直接的な目標とはせず、社会科授業はそこからは引き下がりあくまで社会認識形成を目指すべきであると主張しているのである。

Ⅲ 意思決定学習の特質と課題

1 意思決定学習分析の視点

小原の主張以降、様々な意思決定学習が提案されている。それらは、森分の市民的資質の構造に基づいて事実認識を重視するか、価値認識を重視するかによって分類される。また、小原と森分の立場の違いをふまえると、意思決定自体を目的とするか、それを手段として位置づけるかによっても類別されよう。さらに、本研究においては、最終的に間違いない一つの決定に導いていくのか、あるいは児童の主体的な決定を尊重し複数の決定を保障するかという視点を設定する。これらの視点に基づいてこれまで提案されてきた意思決定学習を類別し、分析していくことにしたい。

意思決定学習を分析する際の視点は、以下の三点である。

- ・事実認識を重視するか、価値認識を重視するか
- ・意思決定を目的とするか、手段とするか
- ・オープンエンドか、クローズドエンドか

第一に、事実認識を重視するか、価値認識を重視するかである。森分の市民的資源教育論のように、価値認識も視野に入れながらも、事実認識の形成を中心とするものが前者となろう。小原の意思決定学習論のように、社会科で育成すべき資質を広く捉え、価値認識まで踏み込んでいくものは後者となろう。

第二に、意思決定を目的とするか、手段とするかである。森分も、「指導において、合理的意思決定を

目的とするか、手段とするかの違いがある」⁷⁾と述べている。小原の意思決定学習論のように、終結部に意思決定を行うものは前者になろう。森分の市民的資質教育論のように、開かれた社会認識形成のために意思決定を用いるものは、後者になろう。

第三に、オープンエンドか、クローズドエンドかである。意思決定において多様な決定を保障するのがオープンエンド、意思決定を通して一つの答えに到達させようとするのがクローズドエンドである。森分・小原の論は、児童が自ら社会的事象を評価・判断し、その多様性が保障されているために、前者であると言える。後者は、一つの態度や行動を目指すものである。

この三つの視点から意思決定学習を捉え、その特質を明らかにしたい。

2 意思決定学習の分類

意思決定学習を、第1節の三つの視点から分類すると、下の表1のような八つの類型となる。

第一に、事実認識・意思決定目的・クローズドエンド型である。この型は、事実認識の形成をふまえて終結部に意思決定を行うものである。特定の意思決定を導くために教えるべき知識が選択され、事実認識を形成することで、結果的に児童の認識を閉ざしてしまう。

第二に、事実認識・意思決定目的・オープンエンド型である。この型は、科学的な社会認識形成をふまえて授業の終結部に意思決定を行うものである。この型の先行研究として、滋賀県の小学校教諭である松浦雄典の「安全な暮らしを守る人たち」を挙げたい。松浦は、参加学習では系統的な知識を獲得することが難しいという問題意識をもち、参加活動そのものを学習対象としている。松浦は、題材を防犯活動とし、従来は警察の工夫や努力を取り上げる学習が多い中、「今回の実践で新たに目指したところは、社会を対象化させ、自分や警察も含めた多様な立場から安全な暮らしを守る主体やその方法を捉えさせようとしている」⁸⁾と述べている。すなわち、従来、態度形成を

表1 意思決定学習の分類

	意思決定＝目的	意思決定＝手段
事実認識 中心	①事実認識・意思決定目的・クローズドエンド型	③事実認識・意思決定手段・クローズドエンド型
	②事実認識・意思決定目的・オープンエンド型	④事実認識・意思決定手段・オープンエンド型
価値認識 中心	⑤価値認識・意思決定目的・クローズドエンド型	⑦価値認識・意思決定手段・クローズドエンド型
	⑥価値認識・意思決定目的・オープンエンド型	⑧価値認識・意思決定手段・オープンエンド型

目的とし、取り上げられてきた教材を扱いながらも、科学的な社会認識形成に重点を置いた授業を創造しているのである。

この単元の特徴は、科学的な社会認識形成のために意思決定（選択行動）が用いられていることであろう。その部分の児童の活動について松浦は、「自分を含む多様な立場から立場を一つ決め、安全な暮らしを守る方法を考える」⁹⁾と述べている。すなわち、自ら多様な立場をふまえて意思決定をすることで、自分の立場を対象化するのである。価値判断に踏みこむことを目指しているのではなく、それまでの授業で得た知識を活用して思考することが意思決定の目的なのである。知識を応用することによって、転移する知識であることを確認するという意図もある。

第三に、事実認識・意思決定手段・クローズドエンド型である。この型は、事実認識を形成しながら意思決定を何度も見直し、最終的に到達目標である態度や行動を形成しようとするものである。この型も第一の型と同様に最終的には特定の価値に基づく態度・行動を促すものであるため認識が閉ざされていくことになる。

第四に、事実認識・意思決定手段・オープンエンド型である。この型は、科学的な社会認識を形成しながら自己の意思決定を見直させ、最終的には多様な選択肢の中から児童の主体的な判断で解決策を決定させようとするものである。この型の具体的な授業としては、岡山県の小学校教諭である江原知博の開発した授業をあげたい。

江原は、エビの養殖と環境問題の関係に焦点を当て、自分と他国とのつながりやお互いの国にとって利益を追求することの大切さに気付かせる小単元「エビと日本人」を開発している。この単元は、4時間の概念探究過程と、2時間の意思決定過程で構成されている。意思決定場面では、提示された4つの解決策をランキングさせる。江原の授業は、問題に対する多様な解決策を示し、どの解決策が最も有効であるかを検討させる中で、事実に対する認識をより確かなものにしようとしている。特定の解決策を押し付けないことによって開かれた認識形成を保障しているのである。意思決定を取り入れながらも、活動主義に陥ることなく科学的な社会認識形成を保障しようとした実践となっている。

第五に、価値認識・意思決定目的・クローズドエンド型である。この型は、人々の態度や行動の背後にある価値観に気付かせたうえで、特定の態度や行動を促

すように授業を取れんさせていこうとするものである。終結部に位置づけられた意思決定活動によって、学習を通して捉えた価値観をより強固に内面化させようとしているのである。

第六に、価値認識・意思決定目的・オープンエンド型である。この型は、終結部に意思決定を位置付けているが、多様な決定を促すことで開かれた認識形成を保障しようとするものである。先行研究として、小原友行の開発した単元「森林の南北問題」を挙げたい。

小原の提案した授業では、森林問題について現状と問題点を認識し、自分がそれについてどう考えるかを発表して、話し合う活動が取り入れられている。最終的には森林の適切な利用と保護のためにどのような行動が求められるかを考えさせパンフレットを作成させている。この授業では、割り箸や紙コップなどの利用を森林資源保護の観点からやめるべきか、それとも有効な資源活用の方法の一つとして推奨するかを考えさせることで、児童の価値判断を促しているが、特定の解決策を押し付けるのではなく児童の主体的な判断を尊重し授業を終結させている。

第七に、価値認識・意思決定手段・クローズドエンド型である。この型は、人々の態度や行動の背後にある価値を捉えさせながら意思決定を促し、最終的に一つの態度や行動を児童に受け入れさせようとするものである。最終的な意思決定よりも、その決定の基盤となる価値観の習得が目標とされる点が第五の型との違いである。

第八に、価値認識・意思決定手段・オープンエンド型である。人々の態度や行動の背後にある価値を捉えさせながら意思決定を促し、最終的な判断は児童の主体性に委ねるものである。

この類型の先行研究として、桑原敏典の分析した『21世紀の選択』シリーズの授業が挙げられる。この授業は、アメリカが抱える課題の解決について判断するものである。ロールプレイを用い、それぞれの立場を確認し、政策決定会議を行い、自らの考えに最も合う政策を選択・あるいは創造する授業となっている。この授業の特徴は、意思決定を通して自らの思想を見直す点にある。桑原は、単元構成について、「同じ事実に基づいても異なった政策が立案可能であること、その違いは政治思想の違いによることに気づかせるとともに、様々な政治思想があることや、その違いを理解し、また自らの思想を自覚して見直す機会を提供するものである」¹⁰⁾と述べている。すなわち、自らの思想を反省的に吟味するような単元構成になって

いる。

これらの分類のうち、本研究は第八の類型である価値認識・意思決定手段・オープンエンド型にもとづいて授業を構成する。それは、第一に、学校教育において市民的資質を広く捉え、事実認識だけではなく価値認識を積極的に形成する必要があると考えるためである。第二に、多様な決定を促し、開かれた価値観形成を保障するためである。そして、そのうえで、この分類に存在する課題を克服するような意思決定学習の方法を考察する。

Ⅳ 意思決定を促す小学校社会科授業の授業構成原理

第三章2節で示した第八の類型には、小学校で実施するうえでは困難な課題が存在する。

桑原の分析したアメリカの教材は、自己の価値観を反省的に吟味するための優れた教材であるが、小学校段階においては、児童は自己の価値観を確立していないため、このような授業の実施は困難であると考えられる。そこで、桑原の論に加え、岩田一彦の意志決定学習論を参照し、その課題を克服したい。

なお、岩田は、意思決定ではなく、意志決定という立場をとっている。岩田は、バンクス (James A. Banks) の構想した単元を例に、意志決定について、「自分がある立場に賛成的である・同情的であるなら、『その立場の人々を支援するために自分は何をなすべきか→更にそれによってどんなことがおきると予測されるか→それを考慮するとどれを選択することが最もよいのか、』といったプロセスで、学習者に自分が“できること・なすべきこと”を選びとらせることをねらいしている」¹¹⁾と述べている。すなわち、授業で形成した事実認識と価値認識は、何らかの行動を起こすことを前提として位置づけられているのである。このように、市民的活動と市民的資質を区分した森分に対して、市民的活動を含めて社会科で育成すべき市民的資質を捉えているのが岩田の意志決定学習論の特徴である。

本研究では、市民的活動の基礎を形成するのが社会科の目的であるという立場に立ち、基本的には、森分の社会科授業構成論に基づいて意思決定学習の原理を検討していくことにしたい。

小学校で具体化するための原理は、以下の三点にまとめられよう。

- ・多様な価値を、共感的理解の過程を通して捉えさせる。
- ・役割演技によって、自己の価値観や欲求を留保し

た決定を促す。

- ・意思決定学習を通して、捉えた価値観の相対化を図る。

第一に、多様な価値を、共感的理解の過程を通して捉えさせることである。岩田は、「問題解決過程における人物の価値判断の根拠を追究すれば、児童の体験と結びついた価値判断能力が形成できる」¹²⁾と述べている。すなわち、人物の心理や、それにもとづく行動を追体験することで、児童が価値判断や意思決定を行うことが可能になると言える。価値認識を重視する意思決定学習においては、論争問題の背後に潜む価値を明らかにする必要がある。そのためには、論争問題に関わる人物に焦点を当て追体験を行い、共感的に理解をすることが必要である。そのことによって、多様な価値を捉えることができると考えられる。

第二に、役割演技によって、自己の価値観や欲求を留保した決定を促すことである。ロールプレイングを行い、割り当てられた立場から社会的事象を見つめ、意思決定を行うのである。桑原は、『21世紀の選択』シリーズにおけるロールプレイングを用いた意思決定について、「生徒は、公の公聴会や政府の委員会のロールプレイを通じて、専門家と同様の手続きを踏まえて政策について熟考することができる」¹³⁾と述べている。すなわち、政策決定を行う立場から社会的事象を追体験させているのである。これによって児童は、自分の個人的な立場や感情を排して、社会全体にとって大切なものは何かという観点から意思決定をすることが目指される。

第三に、意思決定学習を通して、捉えた価値観の相対化を図ることである。主張の背後に存在する価値は、共感的理解を通して捉えさせる。しかし、それだけでは他人の価値を児童たちに無批判に受け入れさせてしまう可能性がある。そのため、意思決定の場面において、集団の中で議論を行い、複数回にわたって主張を吟味することで、価値を吟味し相対化し、自分なりの価値観形成を促すことが可能となる。

これら三つの授業構成原理をもとに、単元を開発した。

Ⅴ 意思決定を促す小学校社会科授業開発

開発した単元では、チョコレートを題材として南北問題を取り上げる。南北問題は、価値の対立が含まれる世界規模の問題であり、チョコレートはそのような南北問題の代表的な事例として取り上げることができる。かつ、児童にとって非常に身近であり具体的に考

えやすいということから、優れた教材であると考ええる。

単元は、小学校第六学年を対象としている。その目標は、「アフリカなどの発展途上国で起きているカカオ農家の貧困について関心をもち、各種資料をもとにその原因を探究し、チョコレートの原料となるカカオ栽培に関する問題と自分の生活がつながっていると認識することを通し、どのように問題を解決していけばよいかを考えることができる」である。

到達目標は、以下のようになっている。

○知識・理解

- ・カカオ栽培はあまり利益にならないにもかかわらず、生産コストが高いことから、生産者は苦しい生活を送る。
- ・農園をつくり利益を増すために熱帯雨林が伐採されている。
- ・多国籍企業が作り出したシステムで、労働者は苦しい生活を強いられている。

○能力

- ・割り当てられた立場に立ち、議論ができる
- ・主張の背後にある価値を理解することができる
- ・多様な価値を受容できる
- ・情報を活用して意思決定を行うことができる

これらの目標を達成するための単元構成は、以下の表のようになっている。

表2 「チョコレートから見る南北問題」単元構成

		時	児童の活動
事実認識	問題把握	1	「どうしてカカオを作る人たちは、苦しくてもカカオを作るのだろうか。」という問いを追究する。
		2	「どうして森林が伐採されているのだろうか」という問いを追究する。
価値認識	価値の共感的理解	3	ロールプレイングを行い、それぞれの立場の価値を共感的に理解する。
	話し合い	4	ロールプレイングを行い、それぞれの立場から主張をし合うことを通し、他の立場の価値を知る。
	自らの意思決定	5	他の立場について考えることで、自己の価値を相対化し、自らの立場で意思決定を行う。

問題把握の過程は、「どうしてカカオを作る人たち

は、苦しくてもカカオを作るのだろうか」という問いをMQに据え、その原因を探究過程とする。労働問題について学習し、その原因を貿易システムに求める。また、経済的な問題だけでなく、環境問題が起きているということを提示し、なぜそれが起きるのかを追究する。このことで、南北問題が環境にも影響を与えていることを捉えられるようにする。

価値の共感的理解の過程では、児童を四つの立場にグループ分けし、資料を読ませる。そして、それぞれの立場の願いや思いを理解し意思決定を行うことで、その立場の価値を自分のものとしてすることができるようにする。

共感的に理解する立場は、以下の四つである。

- ・フェアトレード団体
- ・国際熱帯農業研究所
- ・ヤチャナ・グルメ社
- ・森林公社

フェアトレード団体については、「フェアトレードを推進すべき」という主張を設定する。この主張は、チョコレートの価格を上げ、増した利益を労働者に還元することで、労働条件を改善していこうという考えに基づいており、市場原理に任せて労働者の利益を保護していくべきという価値観に分類される。政府に頼らないために国の負担は少ないが、成功するかどうかは消費者次第であると言える。

国際熱帯農業研究所については、「ファーマーズ・スクールを推進すべき」という主張を設定する。この主張は、農家の自立支援を行い、カカオの生産量を増やすことで生産者の待遇を改善しようという考えに基づいており、政府が介入して労働者を保護すべきという価値観に分類される。政府が介入するために期待は大きいですが、政府の財政負担は大きくなる。

ヤチャナ・グルメ社については、「日陰栽培を導入すべき」という主張を設定する。この主張は、環境を破壊することのない、森林と共生することのできる方法で育てられたカカオを生産し、環境を保護していこうとする考え方に基づいている。生産量は減りチョコレートの価格は上がるが、森林の伐採を防ぐことができる。この考えは、環境保護は市場原理に委ねて解決を目指していくべきという価値観に分類する。

政府に頼らないために国の財政負担は少ないが、成功するかどうかは消費者が購入するかどうかによる。

森林公社については、「カカオ畑の面積を制限すべき」という主張を設定する。これはカカオ畑の面積を制限し、長い年月をかけて森林を再生させていこうと

する考え方である。この考えは、政府が介入し環境を保護するべきという価値観に分類する。この解決策も政府が介入するために期待が大きいが、政府の財政負担などが大きくなる。

これらの四つの立場と、その立場を図に表すと、以下の図1のようになる。話し合いの過程では、それぞれの立場の主張をぶつけ合い、政策を決定するための会議を設ける。この過程のねらいは、自分が理解した価値以外にも、多様な価値が存在することを知り、割り当てられた価値を相対化することにある。自らの意思決定の過程では、クラス全体で話し合いをもち、それぞれどのような主張であったのか、なぜそのような主張を行うのか等を確認したのち、決められた立場

から脱し、自分なりにどの解決策を支持するかを選択する。そして、その理由を明示し説明することで、どのような価値にもとづいて意思決定を行ったのかを自他ともに理解できるようにする。そのために、意思決定を行ったのちに児童たち同士で意見を交換する場面を組織する。これは、相手はどう考えているのか、また自分がどう考えているのかを明らかにすることに加えて、さらに自己の考え方を相対化する過程でもある。このように、何度も他人の意見を聞くことで、共感的理解で得た深い価値の理解を相対的なものへと変えていく。

以下、一部省略しながら単元計画を示す。

図1 「チョコレートから見る南北問題」における価値対立

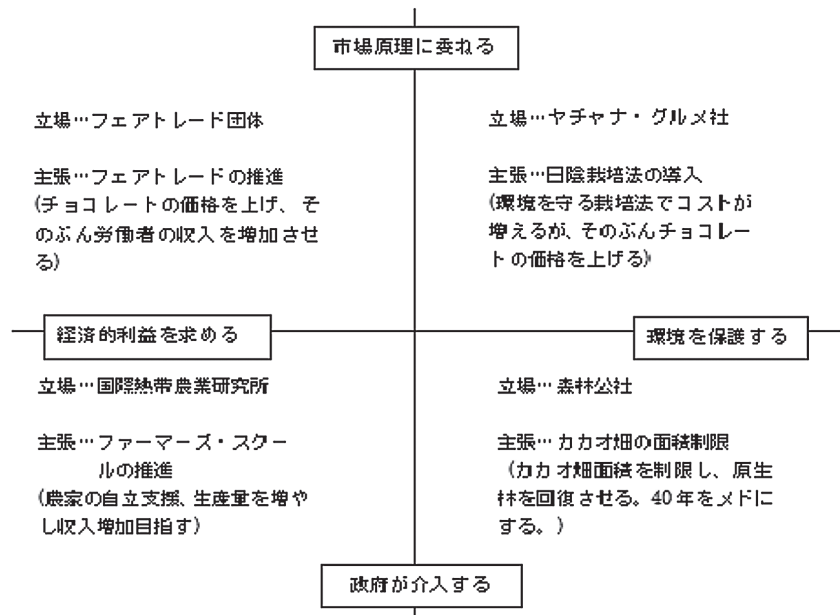


表3 「チョコレートから見る南北問題」単元計画

教師による指示・発問	教授学習活動	資料	児童の学習活動・獲得させたい知識
【第一時】 ・カカオ生産者は、どのような労働状況の下で働いているのでしょうか。	T：発問する P：答える	1	・カカオ生産者は、長時間、安い賃金で働かざるをえない。
・生産者の児童たちは、どのような生活をしているのでしょうか。	T：発問する P：答える	2	・生産者の児童たちは、学校にもなかなか行けず、危険な作業を任せられ、場合によっては他の農園に売られ、虐待を受けている。
・なぜこのようなことが起きるのでしょうか。	T：発問する P：答える	3	発展途上国に不利な貿易のシステムによって引き起こされている。

【第二時】 ・カカオを大量に栽培することで、何が問題をなっているのでしょうか。	T：発問する P：答える	4	・カカオ畑を拡大しすぎ、森林の破壊が起きている。
・なぜこのようなことが起きるのでしょうか。	T：発問する P：答える	5	・コートジボワール経済は、カカオに依存しており、カカオの生産を優先させなければ国の経済が衰退してしまうため。
【第三時】 ・A～D の解決策を見て、どの解決策がよいかを考えましょう。 ・今から四人のグループに分かれて、ください。その後、四つの資料を配るので、自分の読むものを決めてください。そして、書いてある人たちの立場になって、どういう解決策を選ぶかを考えてみましょう。	T：指示する P：ワークシートに書く T：グループ分けをし、資料を配る P：資料を読み解決策を考える	6 7 8 9 10	・四つの解決策の中から、最も良いと思うものを選ぶ。 ・資料を読み、それぞれの立場の主張や、思い・願いを読み取る。 (四人一組のグループに分かれる)
【第四時】 ・今からコートジボワールの政策を、話し合って決めてもらいます。割り当てられた立場で話し合いに参加し、どんな解決策がよいかをみんなで決めてください。解決策は、四つの解決策以外のものでも構いません。	T：指示する P：話し合う		・どのような観点で話し合いを行うかを確認し、話し合いを行う。
・どの解決策が一番いいと思いましたか。それはなぜですか。	T：発問する P：答える		・自分がなぜそれを選んだのか、根拠を確認する。
【第五時】 ・話し合いをふまえて、自分ならどういう解決策にするかを考えてみましょう。	T：発問する P：発表する		・割り当てられた立場を離れ、自分なりの解決策を考える。
・友達の決定と比べてみましょう。	T：指示する P：比較する		・自らの意思決定を相対化する。
・友達の決定をふまえて、もう一度、政策を選んでみましょう。	T：指示する P：選択する		・再び自分の判断を吟味し、意思決定を行う。

VI おわりに

本研究では、小学校社会科授業において、市民的資質育成には不可欠である意思決定力を育成するための授業方略を明らかにした。

本研究の成果は、第一に、その授業構成の原理を提示したことである。現代では価値認識・意思決定手段・オープンエンド型の意思決定が求められ、それを小学校段階で実施するために、三つの授業構成原理を示した。第二に、その原理にもとづいて、意思決定力を育成する小学校社会科授業の具体的なあり方を、単元計画の立案を通して示したことである。この学習を通して、児童たちは主張の背後にある価値に気づき、自らの価値を自主的に形成していくことができるのではないだろうか。

【註】

- 1) 小原友行「社会科における意志決定」社会認識教育学会編『社会科教育ハンドブック』明治図書、1994年、p.170.
- 2) 同上、p.172.
- 3) 同上、p.172.
- 4) 森分孝治「市民的資質形成における社会科教育—合理的意思決定—」社会科教科教育学会『社会系教育学研究』第13号、2001年、pp.46-47.
- 5) 同上、p.48.
- 6) 同上、p.46.
- 7) 同上、p.49.
- 8) 松浦雄典「小学校社会科における批判的参加学習の理論と実践—第四学年『安全なくらしを守る人たち』を例に—」第59回全国社会科教育学会、2010年、p.6.
- 9) 同上、p.8.
- 10) 桑原敏典『中等公民的教科目内容編成の研究』風間書房、2004年、p.232.
- 11) 岩田一彦『小学校社会科の授業設計』東京書籍、1991年、p.212.
- 12) 岩田一彦『社会科固有の授業理論・30の視点—総合的学習との関係を明確にする視点—』2001年、p.136.
- 13) 桑原、前掲書、p.224.

【参考文献】

- (1) 小原友行「社会科における意思決定」社会認識教育学会編『社会科教育ハンドブック—新しい視座への基礎知識—』明治図書、1994年、pp.167-176.
- (2) 森分孝治「市民的資質形成における社会科教育—合理的意思決定—」社会科教科教育学会『社会系教育学研究』第13号、2001年、pp.43-50.
- (3) 松浦雄典「小学校社会科における批判的参加学習の理論と実践—第四学年『安全なくらしを守る人たち』を例に—」第59回全国社会科教育学会、2010年.
- (4) 江原知博「取り巻く社会と自分とのつながりを考える小学校社会科授業—『エビと日本人』の単元開発から—」第58回全国社会科教育学会弘前大会、2009年.
- (5) 桑原敏典『中等公民的教科目内容編成の研究—社会科公民の理念と方法—』風間書房、2004年.
- (6) 岩田一彦『小学校社会科の授業設計』東京書籍、1991年.
- (7) 岩田一彦『社会科固有の授業理論・30の視点—総合的学習との関係を明確にする視点—』2001年
- (8) ジャン＝ピエール・ボリス『コーヒー、カカオ、コメ、コショウの暗黒物語 生産者を死においやるグローバル経済』作品社、2005年.
- (9) キャロル・オフ『チョコレートの真実』英治出版、2007年.
- (10) 岩附由香・白木朋子・水寄僚子『わたし8歳、カカオ畑で働きつづけて。～児童労働者とよばれる2億1800万人の児童たち～』合同出版、2007年.
- (11) 下山晃『世界商品と子供の奴隷—多国籍企業と児童強制労働』ミネルヴァ書房、2009年.
- (12) 北川勝彦・高橋基樹編著『現代世界経済叢書8 アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004年.
- (13) 国際農林業協力協会『コートジボワールの農業(2000年版)』国際農林業協力協会、2000年.

TITLE: Study on the Teaching Strategies of the Social Studies Class of the Elementary School Aiming to develop Students' Decision Making Ability — Based on Sympathetic Comprehension and Examination of the Value by Role-Playing —

NAOKI SUGITA (Graduate Student of the Graduate School of Education of Okayama University)

TOSHINORI KUWABARA (the Graduate School of Education of Okayama University)

Abstract

This paper investigates the teaching strategies of the social studies class of the elementary school aiming to develop students' decision making ability. We showed three important points of the teaching strategies to foster the growth of decision making ability.

First, it is to make students understand the value through the sympathetic comprehension.

Second, it is to enable students select a better solution without their emotion and desire.

Third, it is to make students analyze their own value critically by a roll-playing.

And we developed the tentative lesson plan using these strategies.

Keywords: the social studies education, decision making, sympathetic comprehension, a role-playing
